

学 位 論 文 要 旨

博士課程 甲・乙	第 2 号	氏 名	井川 加織
[論文題名]			
Distribution of hemokinin-1 in the rat trigeminal ganglion and trigeminal sensory nuclear complex. Archives of Oral Biology, 79 : 62-69, 2017 DOI: 10.1016/j.archoralbio.2017.03.004			
[要 旨]			
<p>ヘモキニン-1 (HK-1) は TAC4 遺伝子にコードされている新しい哺乳類タキキニンペプチドである。哺乳動物において、タキキニンペプチドファミリーが神経伝達物質としての機能を有していることはよく知られ、このグループの代表であるサブスタンス P (SP) は痛みの伝達に関与することがよく知られている。一方、HK-1 は痒みの伝達に関与すると指摘されているが、いまだ詳細はわかっていない。また、SP の三叉神経感覚核における分布はよく知られているが、HK-1 の三叉神経感覚核における分布の報告は認めていない。</p> <p>この2つのペプチドは同じタキキニンファミリーに属しているため、C末端領域はほぼ同じアミノ酸配列を有し、N末端領域のアミノ酸配列にはほとんど類似性がない。そこで、HK-1 と SP のペプチドのN末端領域からなる6個のアミノ酸からなるHK-1 と SP のポリクローナル抗体をそれぞれモルモットとウサギに感作して作成し（それぞれをHK-1(1-6)抗体、SP(1-6)抗体とする）、雄のSDラットの三叉神経節と脳幹の凍結切片を用いて免疫組織化学手法にて、これらペプチドの三叉神経節および三叉神経感覚核における分布について比較検討した。</p> <p>その結果、三叉神経節においてはHK-1の陽性細胞は小細胞群および中細胞群に分布していた。また、三叉神経感覚核においてHK-1陽性反応は、主知覚核、吻側亜核、中間亜核では認めることができず、尾側亜核第I層と paratrigenimal nucleus では認めることができた。</p> <p>このことは、HK-1 が口腔顔面領域の痒みの治療に対し標的として役立ち得るものと思われる。</p>			

備考 論文要旨は、和文にあつては2,000字程度、英文にあつては1,200語程度とする。